

令和6年度 第5回 藤沢市立大鋸小学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025年2月14日(金) 9時30分～11時30分

場所 藤沢市立大鋸小学校 2階 指導室

出席委員	堀河 俊介(会長・保護者) 山崎 晋治(副会長・大鋸小学校校長) 田中 舞(保護者) 大谷 美津子(村岡地区青少年育成協力会大鋸児童館長) 織部 朋子(大鋸地区社体協) 渋谷 幸江(藤沢東部地区主任児童委員) 平石 美和(村岡地区主任児童委員) 饗庭 寛子(村岡公民館長) 近藤 千鶴(大鋸小学校教頭) <p style="text-align: right;">以上9名(欠席者1名)</p>
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議題 (1) 学校評価について (2) 次年度の取り組みについて (3) その他 4 その他
協議内容	意見等 <b>*3(1) 学校評価について</b> 【学校より】 ・毎年、3月の学校だより臨時号として、結果と考察を伝えている。本日は、この結果も含めて、委員のみなさに今年度の評価(アンケート)をお願いしたい。 ・児童、保護者の対象は、3・5年生。それぞれ項目をそろえて、相関性がわかるような内容で構成している。保護者については、Google フォームでの回答に変更して3年目となるが、回答率が下がっている現状がある。回答率を上げるための工夫(期間延長や周知方法等)をしていきたい。 ・全体として学校生活に対して前向きに取り組んでいる児童が多くいる。一方で、ネガティブな回答をしている児童も一定数いる。主体性や自信をさらに育てていける取り組みを工夫したい。 ・「先生や友だちに進んであいさつをしている」という項目に、「あまり思わない」と選択している児童が、3・5年生ともに他の項目と比べてやや高めであった。自然とあいさつができるよう、お互いに顔を知っている関係になることも大切だと考える。今後もコミスクを通して、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいきたい。 ・学習については、児童・保護者ともに「理解している」という回答が高く、概ね理解できていると考える。

- ・「相談・支援」の項目について、「よくわからない」と回答している保護者の割合が例年高い傾向にある。児童支援担当教諭やスクールカウンセラーの配置、相談にはチームで対応していることなど、引き続き発信していきたい。
- ・児童の「家族に学校の様子を話している」項目と、保護者の「子どもから学校の様子を聞いている」の結果は、概ね80%以上である。しかし、この項目で「あまり思わない」という回答をした児童が、なぜそのように思ったのか、学校と保護者がそれぞれの視点で考えなければならないと感じる。
- ・安全についての項目は、児童・保護者ともに肯定的な回答が多く見られた。
- ・教職員アンケートについては、全職員で行っている。「あまり思わない」「思わない」という回答も見られるが、学年や学級の子どもの実態に合わせて、自身が大切にしたいことに差があったと考えられる。学校として何を大切に、どのように取り組んでいくのか、学校教育目標をしっかりと共有しながら、学校運営に努めていく。

#### 【委員より】

##### ○挨拶について

- ・子どもからすると「挨拶してるよ」と思っているが、大人からすると「声が小さい」「していないのと同じ」といった、挨拶についての思いや捉えの差もあるかもしれない。
- ・子どもと接していると挨拶をしている子は多いと感じるが、「進んで」と言われると、遠慮する子もいるのかもしれない。ここ数年、コロナを経て、声を出すことに抵抗を感じたり、警戒した方がいいと思ったりしている子もいるだろう。
- ・おはボラさんと話すと、自分からは挨拶をしないけど、声をかけると挨拶をしてくれるという声を聞く。防犯の観点からも「進んで」が難しい面もあるのかもしれないし、様々な事情やその日の気持ちもあるだろう。互いに、顔と顔がつながるとよい面もあるかもしれない。
- ・強制する雰囲気せず、折に触れて挨拶のメリット（気持ちよさや人と人がつながるコミュニケーションの第一歩であること等）を、伝えていきたい。
- ・児童の項目は「先生や友だちに」、保護者の項目は「家庭や地域で」と違うため、相手をそろえると結果も変わってくるのではないかと感じる。
- ・下校時のむらおか挨拶運動では、地域の方のモチベーションが上がるほど子どもたちが元気に挨拶をしている。

##### ○相談・支援について

- ・「何でも話したり、話を聞いてあげたりする友だちがいる」児童の割合が高いことから、安心して学校に通っていることがわかる。
- ・保護者が「学校や学年からのたよりに読んでいる」割合も高い。このことや子どもたちの良いところをもっと発信していくと、保護者に伝えることができる。そうすると、子どもと保護者が思っていることのギャップもうまってくるかもしれない。
- ・保護者として、学校からの情報量は、ちょうどよいと感じる。文章の量が多すぎると読まなくなることもある。ポジティブな発信があると、純粹に読みたくなる。

○安全について

- ・昔と違って児童の安全に対する意識が高いと感じた。
- ・安全意識の高さについて、今年保健委員会で地震があった時の身の守り方などを発信している成果もあるだろう。
- ・本校の課題として、4つの門が常時開いている現状（開校当初からの約束）について、防犯面からの不安がある。地域の方とのより良いすみ分けの仕方に、悩んでいるところである。

○その他

- ・自分に厳しい人ほどマイナスな評価をしているのだろう。
- ・3年生の「何でも話したり、話を聞いてあげたりする友だちがいない」という子が0%、5年生の「毎日の学習が、理解できていない」という子が0%であることが、すごいことだと感じた。
- ・例えば、現在5年生の児童が、3年生の時にどんな回答をしていたのか、2年経過してどんな変化があるのかも見てみたい。分析の仕方も、毎年の変化や、同じ人の変化等、様々考えられる。

**\*3(2) 次年度の取り組みについて**

【学校より】

前回話し合った、4つの話題について

- 1.夏のプールの運営、監視、整備
- 2.別室で過ごす児童の対応、見守り
- 3.職員の勤務時間外の見守り（例えば、一年生の教室での見守り 8時～8時30分）
- 4.稼業時間内・外の学習支援

- ・学校は、児童や先生等の個人情報に溢れる場所であるため、学校に出入りする支援者については、慎重に吟味し、信頼できる人をお願いしたい。
- ・1.プールの監視については、次年度試行していきたい。実施するに当たっては、①プール監視の経験がある人、②学校で行う救急法講習会に参加することなどを条件に、担っていただける人を探したい。

【委員より】

- ・子どもが安心できる環境であるためには、関係づくりが大事である。信頼関係をつくれるように、子どもと大人がつながる場づくりからかもしれない。
- ・毎回違う人が来ると、関係づくりが進まないこともあるだろう。できるだけ同じ人が来ることでつながる、つくれる信頼関係もあるだろう。
- ・先生とのコミュニケーションをとることも大事、始めは数人程度からの方が安心して進められるのではないか。

→まとめ

- ・今年度末までは、社体協等をはじめ各団体に発信し、できそうな人を探してみよう。
- ・次年度、第1回目の協議会で、プール監視のメンバー等詳細を決定しよう。
- ・その他、大鋸小学校の特徴を生かした取り組みを引き続き考えていこう。

### **\*3(3)その他**

#### **【学校より】**

##### ・コーディネーターについて

次年度、途中からでも良いので、コーディネーターを配置できたら良いと考えている。みなさんの承認を受けて、決定となる。

- ・今年度は、夏に藤ヶ岡中学校と共催し、不登校の現状について共有できた。次年度も共催できるなら、防災について話し合うのはどうか。

#### **【委員より】**

- ・保護者としての考え方を見直すきっかけになった。それぞれの立場で違うこと、わかることも多かった。防災について、コロナ前は、引き取り訓練を小中合同で行ったこともあった。幼稚園保育園に子どもがいる親もいるため、保護者だけの判断ではなく、避難の順番など決められた流れがあるとスムーズに動けると思った。来年度、ぜひ話し合ってみたい。

- ・人前で意見を言うのは苦手だが、居心地がよく参加することができた。中学校との共催は、知らないことが多く参考になった。来年度もそんな機会があるといいし、いろいろなテーマで状況を共有しておけるといい。

- ・25年前、自分の子どもが通っていたころの学校はオープンで、どんどん中に入ってきてという時代だったが、だいぶ変わったと感じた。子どもたち自身はそんなに変わらないが、どの学年の子どもとも信頼関係を気づいていけるよう、協力できることをしていきたい。プールについても、3月の会議で伝えていきたい。

- ・防災には、非常に関心がある。本当に起きたときに、考えなくていいことが一つでも増えることが大事。学校ごとのマニュアルに、子どもの生の声が反映されるといいだろう。

- ・村岡公民館からは遠く、東部の地域とも重なる大鋸小学校だが、今年は熟議の年となりよかった。毎回、どういう意見がほしいのか、時間をとって考えることができ、急いで決めずに話し合えたことがよかった。

- ・公民館も地域の防災拠点だが、稼業時間中の学校の動きは視点になかった。この視点も入れて、地区の防災について話を進めたい。来年から村岡市民センターという名前に変わる。10月に移転(少し遠くなる)予定である。

- ・この会では、委員のみなさんがいつも前向きに、建設的に意見を言うてくださるため、じっくりと話し合うことができたと思う。堀河会長の人柄と司会進行にも感謝している。

会長より

今日のキーワード「信頼関係」「もっと伝えていかないといけない」のように、毎回の協議で、その時々のもった言葉がキーワードになり、話し合うことができた。会議録を読みながら、今年度、どうだったかを振り返ることで、来年度につながるがあると思う。引き続き、大鋸小学校の特徴を生かした取り組みを考えていきたい。

\*今回をもって今年度の協議は終了